

令和3年10月臨時会 経済委員会（事前）

令和3年10月28日（木）

〔委員会の概要 商工労働観光部関係〕

北島委員長

ただいまから、経済委員会を開会いたします。（10時58分）

直ちに議事に入ります。

これより、当委員会の閉会中継続調査事件を議題といたします。

本日は、商工労働観光部関係の調査を行います。

この際、商工労働観光部関係の10月臨時会提出予定議案について理事者側から説明を願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

【提出予定議案】（説明資料、資料1）

○ 議案第1号 令和3年度徳島県一般会計補正予算（第10号）

梅田商工労働観光部長

商工労働観光部から明日29日開会の臨時会におきまして、喫緊の課題への対応として提出させていただきます補正予算案について御説明させていただきます。

経済委員会説明資料1ページを御覧ください。

令和3年度一般会計予算につきましては、補正額欄の最下段に記載のとおり8,000万円の増額をお願いしており、補正後の予算額は合計で778億3,853万7,000円となっております。

次に、2ページを御覧ください。

課別主要事項説明でございます。

にぎわいづくり課の観光費の摘要欄①のア、とくしまマラソン支援事業につきましては、2022大会の開催経費として3,000万円を計上しております。

また、イ、みんなが安全・安心！なっ「とくしまマラソン」感染症対策支援事業につきましては、大会の安全・安心を確保するため、国の臨時交付金を活用し5,000万円を計上しております。

なお、詳細につきましては、資料1に基づき御説明させていただきます。

資料1を御覧ください。

とくしまマラソン2022についてでございます。

とくしまマラソン次回大会につきましては、9月定例会の事前委員会の御報告では、県内はじめ全国の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況やワクチン接種の状況、他大会の開催状況等を注視しながら慎重に検討を行い、改めて実行委員会を開催し、委員の皆様にお諮りすることとしておりました。

こうした中、去る10月26日に開催されましたとくしまマラソン実行委員会総会におきまして、2022大会の事業計画案及び収支予算案について審議がなされ、全会一致で承認されたところでございます。

2022大会の事業計画案でございますが、1の実走のマラソンにつきましては、（1）の

期日は令和4年3月27日の日曜日、（2）のコース、（3）のスタート及び（5）の表彰につきましては前回大会の計画と同様としております。

（4）のスタートブロックにつきましては、Sブロックを2020大会のアスリート枠の選手を対象に配置し、以降は申告タイム順に配置いたします。

（6）の参加資格は国内在住の方に限定するほか、ワクチン接種証明又は陰性証明を御提出いただくなど、主催者が行う感染予防対策を遵守していただける方を対象としております。

（7）の募集定員は従来の3分の1規模となる定員5,000人とし、（8）の申込区分、募集期間は、まず優先エントリー権をお持ちの2020大会エントリー者を対象に令和3年11月17日20時から23日まで募集を行い、入金者が定員に達しなかった場合にはその他の一般の方を対象に令和3年11月26日20時から12月9日まで募集いたします。

（9）参加料につきましては、新型コロナウイルス感染症への対応のため従来の3分の1の定員で開催することに伴いまして、前回大会から4,000円増となる1万4,000円に改定いたします。

また、チャレンジ&チャリティの寄附金を別途3,000円で募りまして、前回大会に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に貢献する団体へお贈りすることとしております。

2ページを御覧ください。

（11）の開催条件につきましては、とくしまアラートがステージⅠ以下であることのほか、最低限の運営に必要なスタッフ、ボランティアが確保できることなど、4項目を条件としております。

なお、大会の実施計画を御審議いただくため、例年どおり令和4年2月頃に開催を予定しております実行委員会総会におきまして、開催条件を踏まえ開催の可否について改めて御判断いただくこととしておりますが、県内外の新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、状況変化があった場合には随時実行委員会を開催し、お諮りすることとしております。

（12）大会が中止となった場合は、オンラインマラソンに振り替えさせていただくこととしております。

2の新型コロナウイルス感染症対策概要につきましては、まず大会全般といたしまして、日本陸上競技連盟策定のロードレース再開についてのガイダンスに沿った運営を実施するとともに、密回避のため定員比2倍の送迎バスや仮設トイレを確保いたします。

続きまして、ランナーやスタッフの皆様への感染症対策といたしまして、ワクチン接種証明又は陰性証明の提出、大会当日の検温の実施や体調管理表の確認などに御協力いただくとともに、携帯用手指消毒スプレーを個別配布し、基本的な感染対策を徹底させていただきます。

また、沿道におきましては、毎回、県民の皆様からランナーの皆様へ温かい御声援を頂いているところでございますが、今回は自粛をお願いすることとし、その代わりといたしまして事前に応援メッセージや動画をお寄せいただき、それらを当日沿道に設置したビジョンカーで放映いたします。

3のオンラインマラソンについてでございますが、指定のトレーニングアプリT A T T

Aを用いたマラソンを、国内在住の18歳以上の方を対象に令和4年3月4日から3月17日まで実施するとともに、任意のアプリを用いた10分の1マラソンを海外在住ランナーやファミリー層を対象に令和4年3月4日から3月27日まで実施いたします。

3ページを御覧ください。

①指定アプリの部は定員は設けず参加料2,000円とし、②任意アプリの部は参加料無料、先着500人として開催いたします。

4、関連イベントといたしまして、マラソン当日にマラソンコースを利用した車いすロードレースを開催いたします。

5の収支予算案についてでございますが、収入の部では、主催者である県、徳島市等からの補助金・負担金収入1億円をはじめ、前年度繰越金を含めた2億1,085万4,000円を計上しており、下段の支出の部につきましても、収入の部と同額の2億1,085万4,000円としております。

収入の部の減につきましては、運営方法の見直しによる感染症対策経費に係る県負担金の減、2020大会の参加料収入の繰越金を精算したことによる繰越金の減に伴うものでございます。

支出の部の減につきましては、前回1万人の優待参加枠を確保しておりましたオンラインマラソンの規模を、今回1,000人規模で見積もっていることなどによるものでございます。

今後、感染状況を注視しつつ、安全・安心なマラソン大会の開催に向け、しっかりと取り組んでまいります。

商工労働観光部から提出を予定しております案件につきましては以上でございます。

御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

北島委員長

以上で説明は終わりました。

これより質疑に入りますが、質疑につきましては提出予定議案に関連する質疑にとどめたいと思いますので、御協力をよろしくお願いいたします。

また、去る10月22日に開会された議会運営委員会において、提出予定議案については本日の委員会で十分審議の上、明日の本会議においては委員会付託を省略して議決することが決定いたしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質疑をどうぞ。

増富委員

9月定例会の事前委員会でも、私はとくしまマラソンについて質問させていただいたのですが、その時は感染者も多く出ておりまして、次回大会についてはワクチン接種の状況、それから他大会の開催状況をはじめ県内及び全国の感染状況など、今後の状況を見極めつつ慎重に検討を進めるというような御答弁がありました。

その御答弁の中で、遅くとも11月までにはとくしまマラソンを開催するかしないかを判断するという説明があったと思うのですが、今回10月の臨時会に予算を提出したということで、その理由をお答えいただきたいと思います。

岩野にぎわいづくり課長

増富委員から本臨時会に予算案を提案した理由について御質問を頂いております。

新型コロナウイルス第5波による感染状況が全国的に改善する中、これからマラソンシーズンを迎え、全国各地で大会が開催されようとしているところでございます。

今週末10月31日には1万人規模の金沢マラソンが、11月3日にはぐんまマラソン、11月7日には下関海響マラソン、富山マラソンの開催が控えているところでございます。

また、四国におきましても来年1月の愛媛マラソン、2月の高知龍馬マラソンが既にランナー募集を終え、開催に向けて準備を進めているところでございます。

こういった状況の中、とくしまマラソンの開催につきましても参加を楽しみにされている方々から問合せが大変増えているところでございまして、この度の10月臨時会開催の機会を捉えまして少しでも早く予算を提案させていただくことで、できるだけ早く広報を開始し、ランナーの皆様にトレーニング等の準備に必要な期間を設けることができるのではないかと考えたところでございます。

また、大会開催に向けた準備期間も確保できることから、ランナー、運営スタッフをはじめ全ての関係者の皆様の安全・安心な大会に向け万全の対策を講じてまいりたいと考えているところでございます。

増富委員

実は私も2019年、それから2020年に申し込んでいまだに走っていないのですが、優先ということで多分出られるのだらうと思います。

今回、参加料を4,000円値上げしました。仕方がない部分もあるのかも分かりませんが、申し込んだランナーとしては4,000円も上がったというのがなかなか受け入れ難いところもあるのかも分かりません。参加料の状況は全国的にどういうふうになっているのか、お聞かせ願いたいと思います。

岩野にぎわいづくり課長

増富委員から参加料の改定、他の大会の状況はという御質問でございます。

参加料につきましては誠に申し訳ございませんが、従来から4,000円増の1万4,000円と改定させていただいたところでございます。

これは、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底するため、定員を従来の3分の1の5,000人に制限したことによるものでございます。

開催が予定されている全国の他大会の状況を見ますと、ほとんどの大会で定員の削減や参加料の値上げが行われているところでございます。例えば、今シーズントップを切って開催します、先ほど御説明しました金沢マラソンでは、定員を約2割削減して6,000円の値上げとなっているところでございます。ぐんまマラソンにつきましては、定員はそのままですが4,000円の値上げを行っております。

四国で見ますと、愛媛マラソンは定員はそのままですが2,750円の値上げ、高知龍馬マラソンは定員35パーセント減で4,500円の値上げとなっているところでございます。

元々の大会規模やスタート会場の事情にもよりますが、定員の削減とともに、3,000円

から6,000円程度の参加料の値上げが行われているところでございます。

こうした状況を踏まえまして、負担を掛けて申し訳ございませんが、ランナーの皆様には是非御理解を賜れればと考えております。

増富委員

僕が調べたところ大阪マラソンの場合は1万円以上参加料をアップしたというような話も聞いたのですが、こういう状況を踏まえたら4,000円は妥当かなとは思いますが。

先ほど部長から大会全般について、それからランナー、スタッフについて、沿道について等々の説明があったのですが、感染症対策についてももう少し詳しく説明してほしいと思います。

岩野にぎわいづくり課長

増富委員から、今回のとくしまマラソン2022大会の感染症対策の内容、詳細を教えてくださいという御質問でございます。

まず、ランナーの皆様をお願いいたします対策でございますが、現在、全国で技術実証が進められておりますワクチン・検査パッケージの考え方に基きまして、各ランナーの皆様にはワクチン接種証明又は陰性証明の提出を義務付けさせていただくこととしております。

また、体調管理にはウェブ上での体調管理チェックシステムを用いまして、大会1週間前から当日まで及び大会終了後の2週間、御自身で管理を行っていただくこととしております。

大会当日には検温、ワクチン接種証明又は陰性証明、体調管理システムの判定結果を確認させていただいて出場の可否を判断させていただき、出走していただける方にはリストバンドを着用いただき、スタート位置への入場も管理したいと考えております。

なお、定員を従来の3分の1とすることで、スタート位置におけるフィジカルディスタンスを一人当たり1平方メートル確保させていただいております。

バスやトイレにつきましては、密を避けるため定員比2倍程度の台数も確保してまいりたいと考えております。

給水につきましては、水を注いだ紙コップに大きめの紙コップで蓋をすることで飛沫^{まつ}混入リスクを低減してまいりたいと考えております。

給食につきましては、個別包装したものを使用してまいりたいと考えております。

フィニッシュ会場におきましては、今までは手渡しでメダルとか参加賞を渡していたのですが、完走記念品をパッケージ化してランナー御自身がピックアップしていただく方法で、ランナーの荷物も整理の仕方を工夫して受渡し時のスタッフとの接触機会を低減していきたいと考えております。

運営スタッフの対策としましては、申し訳ございませんがランナーと同様にワクチン接種又は陰性証明を義務付けさせていただくとともに、大会前後の検温や体調管理表による体調管理の徹底、また、いつもですと、おもてなしの一つとしてランナーの皆様とのハイタッチや御声援を頂くのですが、そういったことについても自粛していただけるように求めてまいりたいと考えております。

こういった対策によりまして、全てのマラソン関係者が安全・安心に参加できる大会の開催に向けてしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

増富委員

マラソンで実際、本当に感染するのか、広がるのかというのは疑問に思うわけですが、専門家によると第6波があるみたいなことも言われているので、非常に難しい選択をしなければならないときも来るかと思います。また、感染症の対策にしてもいろいろ大きくしなければならない部分もあると思います。

今日の徳島新聞でも「3年ぶりに期待膨らむ」と、おおむね良い新聞報道もあるわけがありますので、感染が広がらない対策をとりながら、しっかりととくしまマラソンの準備をしていただきたいと思います。

扶川委員

最初に、参加料は今回値上げで上がるのですけれども、協賛金、広告料の予算というのは過去と比べてどうなのですか。2021年は中止になっているからこんなものですがけれども、過去のと比べてどうですか。

岩野にぎわいづくり課長

ただいま扶川委員から過去の協賛金、広告料等の収入と今回の予算の状況はどういう状況であるかという御質問でございます。

昨年2021大会の協賛広告料につきましては、2020大会を中止した際にすべて繰り越させていただいております、昨年は集めていない状況でございます。

2022大会の予算につきましては例年と同額程度の協賛、広告を見込んでいるところでございます。

扶川委員

参加料を増やさなければいけないのは人数が減ったからですがけれども、沿道の声援も直接はなかなかできないし、参加者も減るということで、事業の費用対効果からしても経済効果はどうしても低くなる。

そういう中で従来と同じ県市の補助金を出すわけですから、こういうときだからこそ協賛金とか広告料をしっかりとお願いせざるを得ないのではないかと思いますので、参加者だけに負担を求めるのではなくて、賛同していただける方の広告料、協賛料をしっかりと集めていただきたいと思いますのですが、どのようにお考えですか。

岩野にぎわいづくり課長

扶川委員からは是非民間の皆様からの協賛、広告を募ってはという話でございます。

我々といえども、コロナ禍ではありますが、できるだけおもてなし、そういったものもやっていきたいと考えております。

そういった考え方に御賛同いただける企業の皆様を募らせていただきまして、できる限り協賛広告も集めさせていただいて、それをランナーの皆さんに還元できるようにしっか

りと取り組んでまいりたいと考えております。

扶川委員

是非そのようにお願いしたいと思います。

応援のことですけれども、コースは当然発表するのでしょうか。ですから、応援に来てしまう人もあるかと思うのですが、そういう方は仕方がないという感じなのですか。それとも帰っていただくのですか。

岩野にぎわいづくり課長

応援につきましては、先ほどから何度も御説明しております、日本陸連が策定しておりますロードレース再開についてのガイダンスにおきまして、沿道の応援自粛を求めることとなっております。

基本的には事前に広告でありますとか、PRとかホームページとか様々な周知をいたしまして、まずはできる限り応援の自粛をお願いしたいと考えているところでございます。

また、実際に応援に来られた方がいらっしゃる場合につきましては、飽くまで要請ではございますが、できる限り今回の趣旨を踏まえまして、コロナ対策、安全・安心な大会の運営というところを御理解いただけるようにしっかりと御説明しながら対応してまいりたいと考えております。

扶川委員

今回に限らないのですが、大きなお金を投入するわけですからできるだけ効果が上がるマラソン大会にすべきだと思うのです。

その効果の検証もやっただけだと思うのですが、例えば、この大会が開かれる前後、前泊であるとか後泊の宿泊者がその時期に増えたとか、最近でしたらアプリで人のにぎわいなんかもある程度把握できるようになっています。そういうものをデータとして調べて記録して、にぎわいが実際に創出されたか検証できるようにしたらいいと思うのですが、従来そういう取組はされているんですか。

岩野にぎわいづくり課長

扶川委員から費用対効果についてちゃんと検証してきたのかという御質問でございます。

過去の分を十分承知しているわけではございませんが、前泊、後泊とか詳しいところについては把握できていなかったものと考えております。

扶川委員

そんなに難しいことでもないのですが、是非こういう大きなイベントをしたときにはどれだけ効果があつたのか、宿泊はどうだったのか、飲食店の利用はどうだったのかとか、把握できる範囲でされたいんじゃないかと思うんです。

そのことによって実際に経済効果があつたことが確認されれば、賛同していただける県民の方も増えるんじゃないかと思いますので、是非前向きに取り組んでいただきたいと思います。

うんです。

経済効果に加えて経済波及効果というのは、そこからいろんなものが広がっていくということで計算できますが、これは飽くまで目安なんで、そこまでするかどうかは別として、常に経済効果がしっかり得られるような視点で検証していただきたいと思いますが、いかがですか。

岩野にぎわいづくり課長

扶川委員から、今後しっかり検証に向けて検討していただきたいという御質問でございます。

今回におきましてはコロナ禍という状況下でございますので、様々な特殊要因等があると思いますが、我々としてもそういったことができるかどうか今後検討させていただければと考えております。

扶川委員

県外から来られる方が徳島県内に宿泊していただけると地域にお金を落としてくれるんです。

だから、やっぱりそういう機会にすることは大事だと思うんですけど、従来の参加者の中で県内、県外の割合というのは分かりますか。

岩野にぎわいづくり課長

中止にはなりましたが2021大会のエントリー者につきましては、県内が大体55パーセント、県外が約45パーセントとなっております。

扶川委員

県内の方の参加も体育・スポーツ振興、健康づくりという意味で非常に有効な意味はあると思うんですけど、県外の方にしっかりアピールして徳島に来ていただくことによって地域経済に貢献するという視点で、経済面からいうと特に県外の方にたくさん来ていただけるような広報をやるべきだと思います。そうすると5,000人で足りるのかなと。

今日も新聞に載っていましたが、会場のスペースに合わせて50パーセントまではオーケーということなんですけど、青天井ですからもうちょっと増やせないのかなという気もします。そうすると採算性も向上するし、経済効果も出てくるし、いろいろメリットがあると思うんですけど、検討することはできませんか。

岩野にぎわいづくり課長

今回の定員を5,000人に絞らせていただいたところでございますが、現在のスタートブロックの中で一人当たり1平方メートルのフィジカルディスタンスを確保するとすると、どうしても5,000人が上限となってくるところでございます。

スタートエリアを拡大する場合は交通規制エリアが拡大されたり、また、ランナーの皆様に御負担が掛かるような荷物預かりの廃止とか、そういった御不便を掛けるような形になると思います。

我々といたしましては、まずは今のスタート位置でフィジカルディスタンスが確実にとれる5,000人、これでしっかりとこの大会を成功させまして、またこれを踏まえて次のステップ。そういう形で進められればと考えております。

扶川委員

仕方ないということですね。そうすると、もしこんな状態が継続して、次回の大会もこんな形で制約せざるを得なくなるようなおそれがあるのであれば、スタート場所に関してもしっかりと検証して大勢の人がスタートできる場所を選ぶべきだと思います。

これも今後の課題として検討していただきたいと思うんですが、それはいかがですか。

岩野にぎわいづくり課長

スタート位置の見直しをしてみてもということでございますが、スタート位置の変更になりますとコース全体にも影響してくるところで、なかなかすぐには難しいところではあるかと思いますが、今後もウイズコロナと申しますか、こういった状況が続くようであれば、やはり多くの皆様に御参加いただけることも非常に重要だと考えておりますので、将来に向けての検討課題としてはしっかり考えていきたいと思っております。

扶川委員

是非そうされた方がいいと思いますので、お願いいたします。

それから、これからそういうことはないと思うんですが、春にステージがⅡ以上になったら中止ですか。中止になった場合、オンライン大会に切り替えるということです。オンラインとなるとなかなか広がり難しいんじゃないかと思うんですけど、従来オンラインにはどれぐらい参加されているのですか。

岩野にぎわいづくり課長

昨年度は実走大会を中止しまして、オンラインマラソンを開催させていただいたところでございます。

このオンラインマラソンはGPS機能が搭載されたスマートフォンアプリを活用したもので、42.195キロメートルを走った方を完走者とさせていただくものです。

昨年度につきましては2,896人の方が出走されまして、2,608人の方に御完走いただいているところでございます。

扶川委員

TATTAの機能を見ると、GPS付きランニングウォッチとかアップルウォッチなんかと連動すると、あるいはスマートフォンなんかを持っていると、ランネットと連携してリアルタイムで自分の順位が分かるとか、そんなことをネットに書いてあるんですけど、徳島県が考えているオンラインマラソンはそこまで高性能ではないんですね。

岩野にぎわいづくり課長

オンラインマラソンに関しましては一気に42.195キロメートル走っていただくものでは

なく、一定程度の期間を設けまして、その間に42.195キロメートル走った方を完走者としておりますので、その時点、時点での順位はなかなか難しいものがあるかと思っております。

扶川委員

大体分かりました。

TATTAがどういう仕組みなのか頭に入っていないので、また勉強してみたいと思いますが、資料を読みますと、とくしまマラソンみたいなことに挑戦される方は更に上のステージを目指していかれる方も多いんだということで、トライアスロンであるとか、それからトレイルランニングとかウルトラマラソンとか、いろんなものがあるようです。

徳島県内でも中山小松島市長さんがトライアスロンをやっていて、ここでも発言されていましたが、将来そういう格好で徳島県内に鉄人さんに来ていただくのもいいんじゃないかと、アイデアとしてちらっと思いました。

将来へ向けて、参加者をそういうところに誘導していったら、また県内で一生懸命走っていただいて活性化に寄与していただく、そんな取組もいいんじゃないかと思います。是非、長い時間を掛けて検討いただきたいんですけど、いかがですか。

岩野にぎわいづくり課長

ただいま、トライアスロンとかいろんなものというお話を頂いたところでございます。

当課におきましては、まずはとくしまマラソンを所管しているというところで、それ以外のスポーツ分野になりますとスポーツ振興課という別の部署もございますので、そういったところとお話をしながら、また伝えさせていただければと思っております。

仁木委員

参加要件の中にワクチン接種証明書又は陰性証明書という部分が入っていると思うんですけども、これは必ず提出、確認ということになるんでしょうか。

岩野にぎわいづくり課長

今回のマラソンの参加につきましては、基本的にワクチン接種証明書又は陰性証明書を御提出いただくことを義務付けさせていただければと考えているところでございます。

仁木委員

先のことなのでまだしっかりと協議できていないかもしれないんですけども、ワクチン接種証明書とか陰性証明にも有効期限がいろいろあると思うんです。

現状で各証明書の期限の利益というか期限の範囲はどれぐらいで想定されているのか教えてください。

岩野にぎわいづくり課長

ただいま、国のほうで正にワクチン・検査パッケージの技術実証が行われているところでございまして、ワクチン接種証明に関しましては、打ってから2週間程度が過ぎた方と

なっております、あと検査日は、PCR検査は72時間以内、抗原定性検査は24時間以内という形で今技術実証が行われているとお聞きしているところでございます。

仁木委員

ここからは要望になるんですけれども、国のほうからワクチン・検査パッケージの方針が出てくるかと思います。ワクチンを打ってからどれぐらいで抗体が減っていくかというのがあると思うので、そこら辺も研究していただいて、感染対策がしっかりできているんだということについてはアピールしていただきたいと思います。その点よろしく願いをいたします。

北島委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

それではこれをもって質疑を終わります。

以上で、商工労働観光部関係の調査を終わります。

これをもって、経済委員会を閉会いたします。（11時32分）